

「真珠の品質について」

須藤雄二氏…日本真珠振興会参与

真珠の美しさは品質でありその要素は、形、マキ、テリ、キズ、サイズ、色

の6つとされている。但し、形、色、サイズは個人の好みである。個別のマキ、テリ、キズは評価として有効と考えている。



真珠の色は複雑で光の作用による光の反射、屈折、干渉作用によって真珠特有の虹色を作り出す。

形について

は、オーバル、サークル、ドロップ、バロック、ボタン、ラウンドに分けられる。

真珠業界は、昭和30

年ころから生産量が大幅に増加した。しかし、40年代に入ると世界的な供給過剰となつて、世界の滞留商品の過剰により価格が落ち、生産量が落ちた。真珠不況と言われている。昭和40年代後半から、回復基調となつたがバブル崩壊後、あこや貝に病気が出たこと、人件費が高騰したことなどから日本のあこや真珠業界は不況の時代に入り、リーマンショック

で底を打った。今はアジアの需要によって回復基調になつた。

2016年に真珠振

興法が成立して回復基調がより鮮明になり、10年後には約1.5倍を目的に活動している。

これからの課題は、地球温暖化にいかに対応していくかにかかっている。生産者の継承についても、生産現場における継承者の若い人の確保が難しくなっている。

放射線処理による色の処理は、弱い放射線を当てることによつて色を変化させる方法について、詳細を説明。

各種処理の情報開示を厳しく規定している。

真珠振興会は教育システムにおいて真珠の価値、魅力を伝える努力を考え、真珠検定を実施し、業界全体が教育活動を行っている。

真珠検定として認定制度を作り、ジュニア

アドバイザー(JA)、シニアアドバイザー(SA)、スペシャリスト(SP)として認定している。

日本の真珠ブランドを構築していくことで、日本真珠をもっと世界に売っていききたいと考えている。